

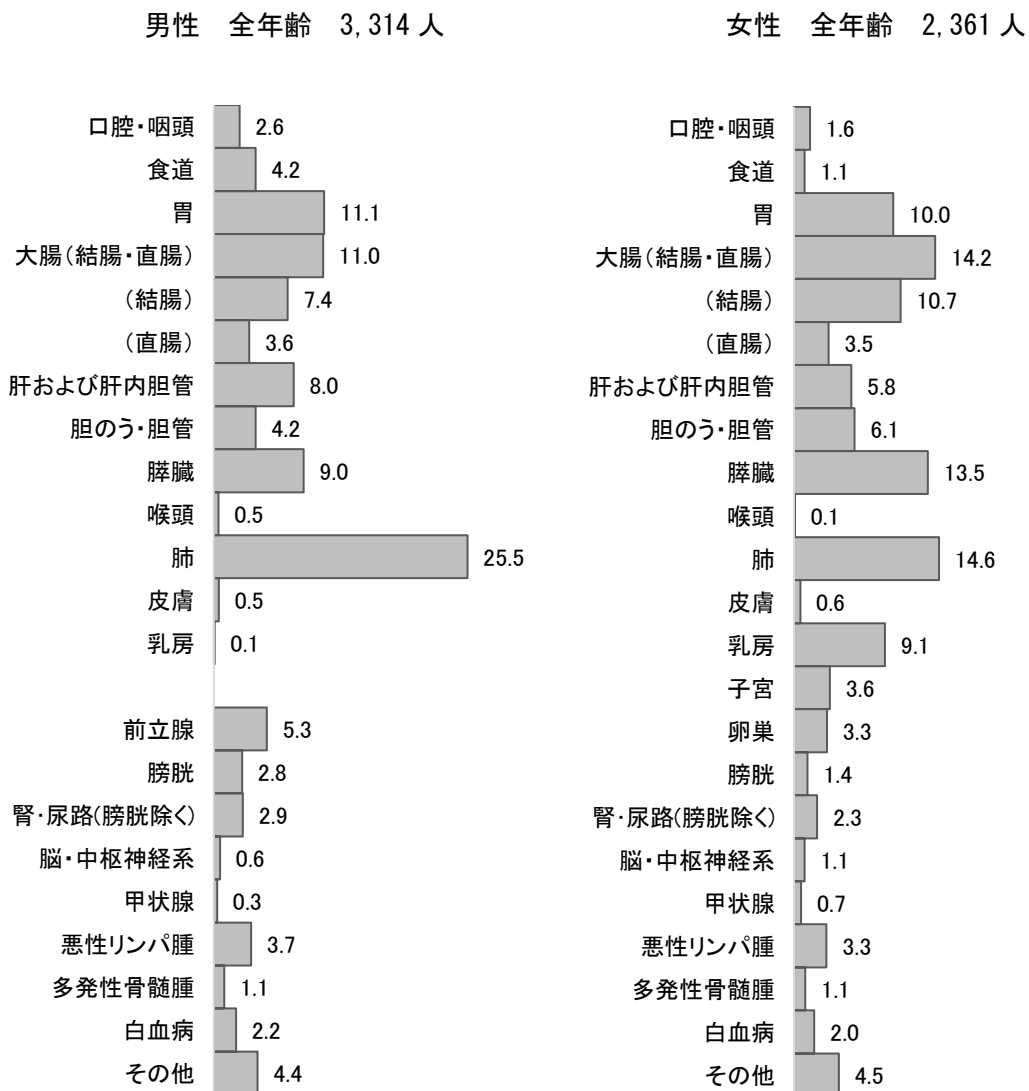
4 死亡の状況

(1) 死亡の概要

岡山県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性 3,314 人、女性 2,361 人、合計 5,675 人であった。

部位別では、男性は肺（845 人、25.5%（全部位に占める割合、以下同じ））が最も多く、次いで胃（368 人、11.1%）、大腸（364 人、11.0%）の順となっている。また、女性では肺（344 人、14.6%）が最も多く、次いで、大腸（335 人、14.2%）、膵臓（318 人、13.5%）、胃（236 人、10.0%）の順となっている。【図 17】

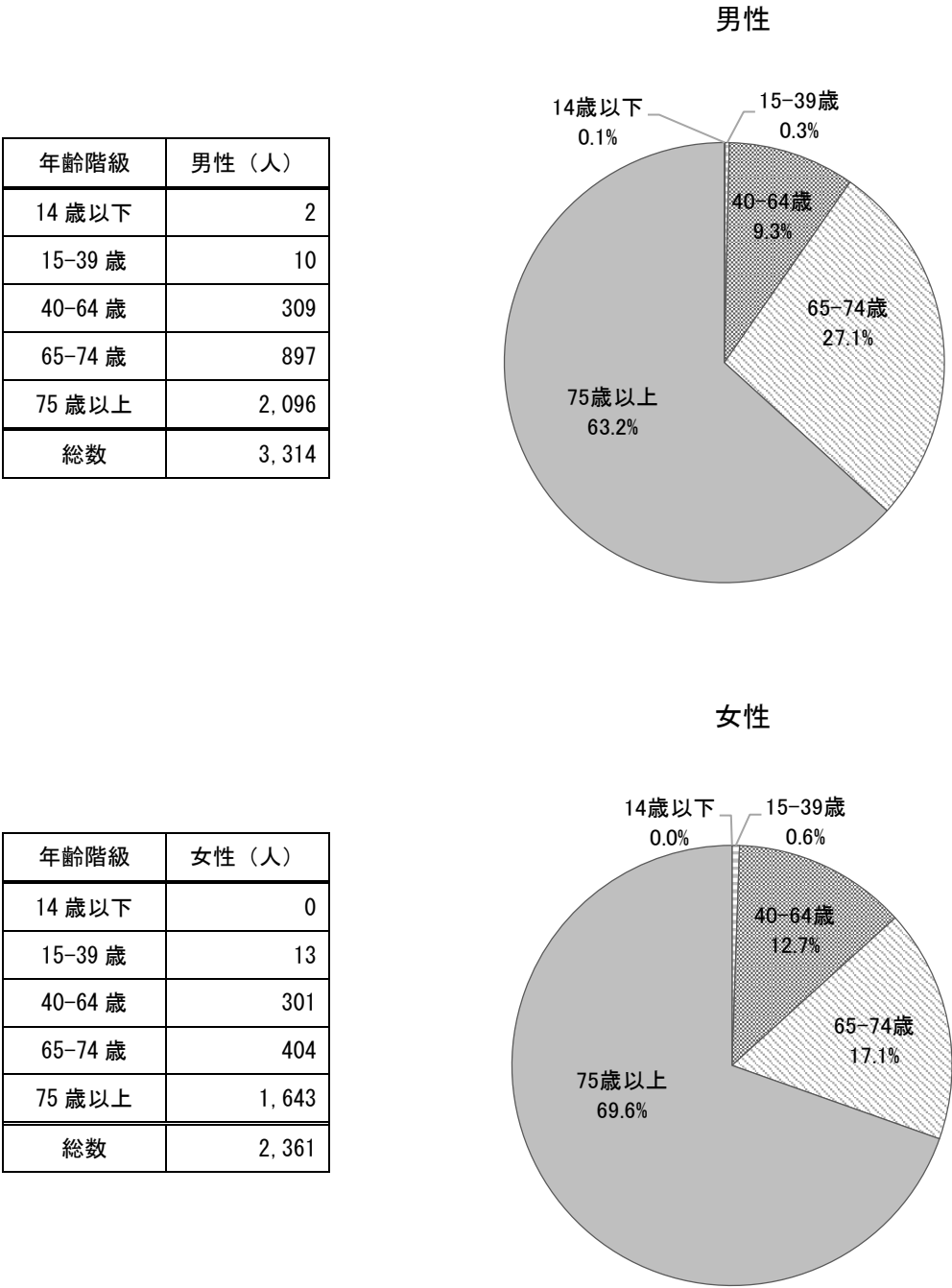
図 17 部位内訳（%）（表 9 から作成）



(2) 年齢別に見たがんの死亡

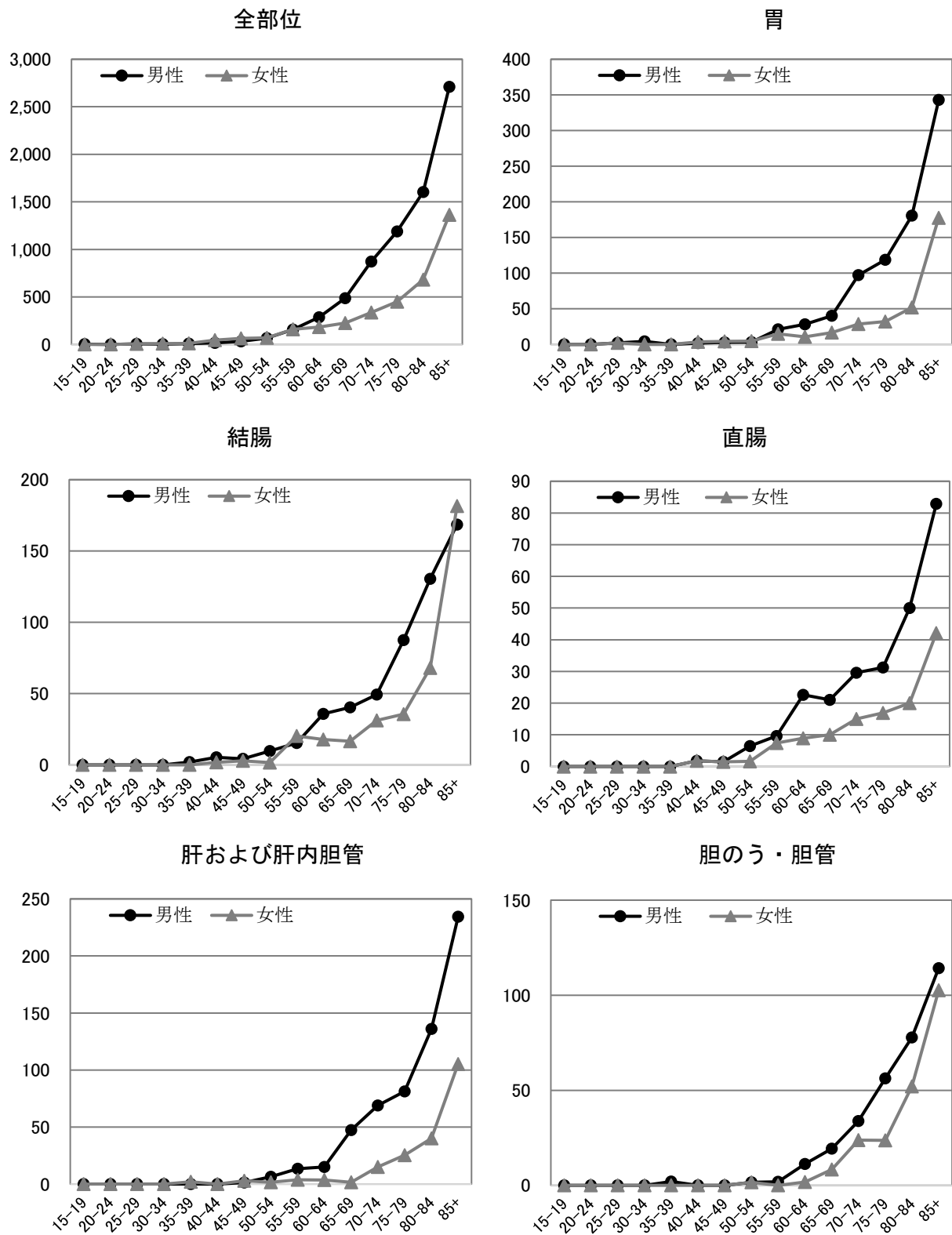
がんによる死亡について年齢階級別内訳をみると、男性では全体の約 90.3%、女性では全体の約 86.7%が 65 歳以上である。【図 18】

図 18 年齢階級別内訳（%）（表 10 から作成）

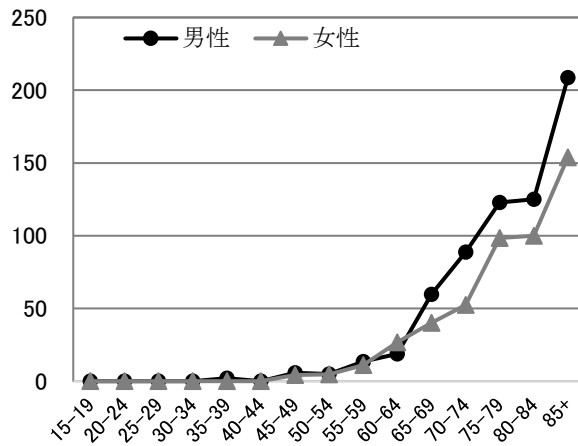


年齢階級別死亡率は、ほとんどの部位において、高齢になると罹患率が高くなるため、年齢とともに高くなっている。子宮・子宮頸部は比較的若い世代の40代の死亡率が高い。【図19】

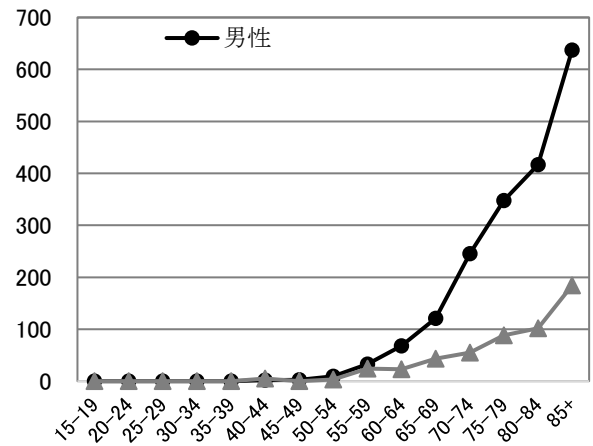
図19 部位別年齢階級別死亡率：人口10万対（表11-2から作成）



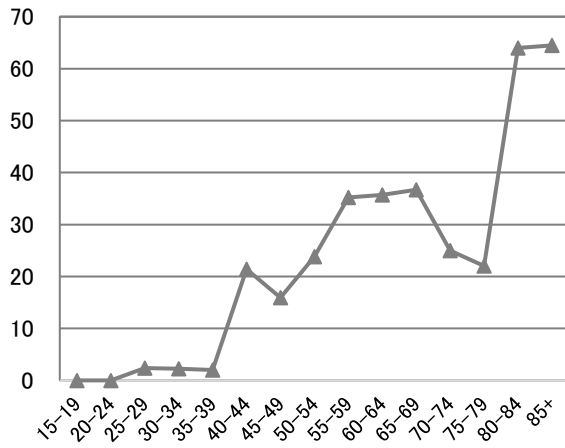
脾臓



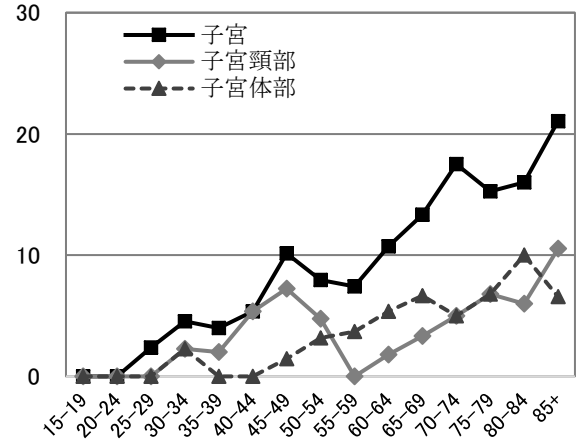
肺



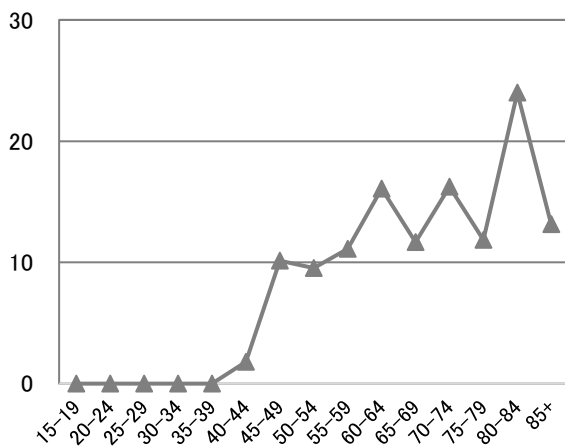
乳房（女性のみ）



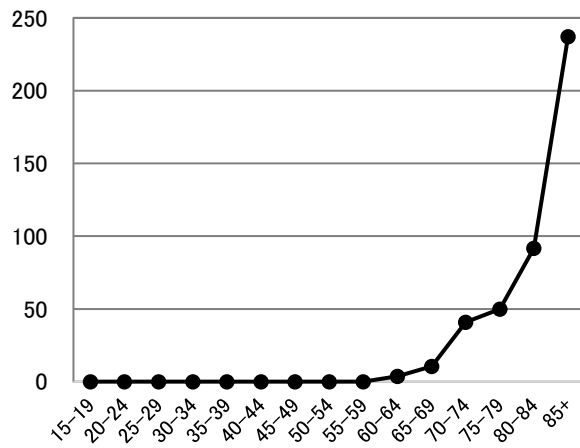
子宮



卵巣



前立腺



（３）岡山県のがんの死亡の特徴

部位別の粗死亡率について、厚生労働省の「人口動態統計（R3(2021)年）」、年齢調整死亡率について、国立がん研究センターのがん情報サービス内に公表されている「がん統計(R3(2021)年）」による全国値との比較を示した。

年齢調整死亡率で見ると、多くの部位において岡山県は全国値を下回っている。【図20・21】

図20 部位別粗死亡率：人口10万対（表9、人口動態統計から作成）

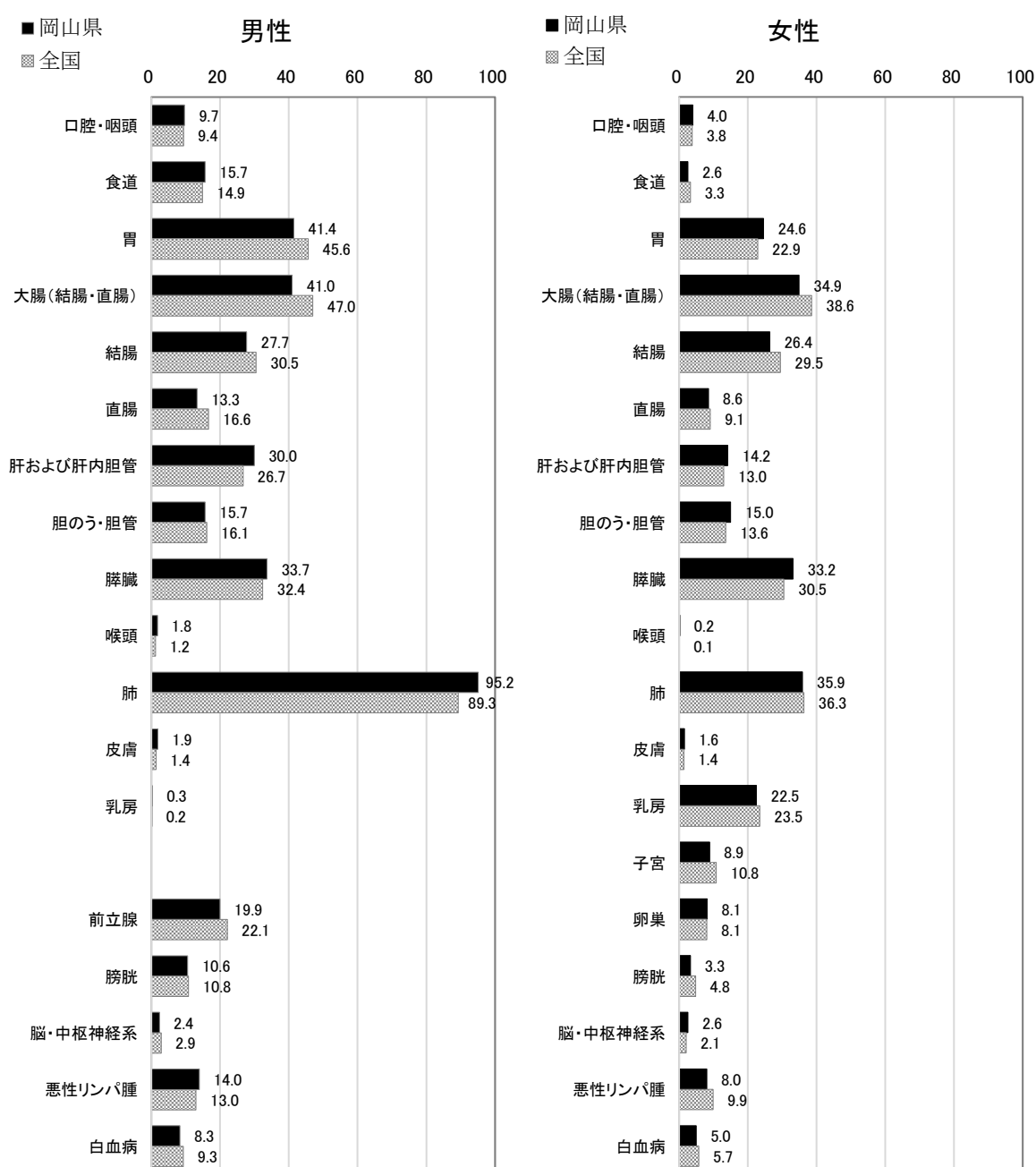


図 21 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（表 9、がん統計から作成）

